

世界のソーシャル・ビジネス

欧州編
スイス洗練されてエレガントな
デザインは女性にも人気だ

3200—3600米ドル
(約3万6千—4万
円)で、国の平均的な
月収2800ドル(約
3万円)を上回る。
特別報酬や、社会保



スポーティーなバッグ④
は約6万7000円。
ハンドバッグは5色展開。
約2万6000円

女性も使いやすい
中米産タイヤバッグ

廃タイヤやトラックの幌^{ほろ}などをリサイクルしたバッグブランドはいくつかあるが、特に女性が持ちたいと思えるデザインはそう多くはない。こうしたなか、パトリック・ツァーニ二さんが立ち上げた「SCHREIF」(シュライフ)は女性からの支持を集め、国内外で取り扱いが増えている。

(チューリヒ=岩澤 里美)

報酬は平均月収以上

スタッフの報酬は現在月収

トラックやバスの不要なタイヤを集める女性から廃タイヤを購入するほか、材料は可能な限り、地元で調達する。

ントを行う。
トラックやバスの不要なタイヤを集める女性から廃タイヤを購入するほか、材料は可能な限り、地元で調達する。

チューリヒ中央駅近くにある本店には、シヨルターバッグなど12のモデルが揃う。黒いタイヤチューブに、白、黄、赤、水色などの本革が映える。洗練されたエレガントな型は、服飾デザイナーのエヴェリン・ウィースさんと工業デザイナーのウルヴァン・ヴェルシュさんの腕前による。
シュライフのバッグは、中米エルサルバドルで作られている。地元出身の男性9人が製作し、女性1人がマネジメントを行う。

障、年金もある。

こうしたビジネスモデルは珍しく、スイスから遠く離れたエルサルバドルに製作所を構えることにしたのは偶然だった。

ツァーニ二さんが中米旅行で同国を訪れたとき、タイヤチューブで作った小物を展示会で見て、「普通は見向きもしない廃タイヤが立派な素材になる」と意表を突かれた。それらを少し買ってスイスに持ち帰り、親友と一緒に販売してみた。

しばらくして、2人は自分たちのタイヤバッグを売ろうと起業。エルサルバドル第2の都市サンタ・アナの製造業者を選んで提携し、スイスで考えたデザインを形にしてもらい、2012年秋に初のコレクションを発表した。

順調に滑り出したのも束の間、両社の関係が複雑になってトラブルも発生するようになった。そして、親友である共同経営者がチームを去るこ

とに。

ツァーニ二さんは廃タイヤのアップサイクルは素晴らしいと感じていたし、エルサルバドルへの愛着も強く、悩んだ末に、スイス側の製作者たちと一緒に、自分の製作所を建てて再出発を図る決心をした。ツァーニ二さんは教師になるつもりで、起業家になるとは夢にも思っていなかった。

「ファストファッションが多く、今の時代に、丁寧に仕上げた、長持ちするバッグを提供したい。中米への社会貢献にもなる」
世の中を少し変えてみたい、人とは違う自分なりの道を歩もう、と思ったら、どんどん世界が広がってきたという。
製作の技術も徹底したトレーニングのおかげで、格段に上がった。国内外の展示会にも精力的に出展し、スイスで計8店、国外で2店がシュライフを取り扱っている。「チャンスがあれば日本でも販売したい」と意気込む。